

レジャープールの今後のあり方について

都市局 みどり公園推進部 都市公園課

沼影市民プールを含むレジャープール5施設の 今後のあり方についてご審議いただきたい



大和田公園プール
(大宮区)



沼影市民プール
(南区)



原山市民プール
(緑区)



三橋プール
(西区)



下落合プール
(中央区)

1. 検討の背景と目的

2. 周辺自治体の動向

3. 現状

4. 課題

5. 課題解決の方向性

6. 集約・再編パターンの検証

(1)市内のレジヤープールの保有状況
(2)利用状況、収支状況
(3)市民の意向

(1)財政負担の軽減
(2)地域バランスを考慮した配置の検討

レジヤープールのあり方方針(案)の策定

- ・レジヤープールの基本的な考え方
- ・レジヤープールの将来イメージ

レジャープールのあり方の検討フロー

沼影市民プール・下落合プールの廃止により、3施設が残る。

現状把握

- ・周辺自治体の動向
- ・利用状況
- ・収支状況
- ・市民意向

課題抽出

課題解決に向けた方向性の整理

財政負担の軽減策の検討

- 【論点】
- ・利用料金の値上げによる利用料収入のアップが図れるか。
 - ・集約・再編による財政負担の軽減が図れるか。



地域バランスの検討

- 【論点】
- ・アクセス性を踏まえたバランスがとれているか。
 - ・利用者数を踏まえたバランスがとれているか。

上記2点の検討結果から、今後のコストを算出するためのパターンを複数提示する。

集約・再編パターンの検証

各パターンについて、財政負担軽減、地域バランスの2点から評価を行い、今後のあり方としてふさわしいパターンを検証する。

レジャープールのあり方方針(案)の策定

1.検討の背景と目的

2030さいたま輝く未来と希望(ゆめ)のまちプラン (2022.3)

- ・本市の将来人口見通しとして、**総人口は2030年頃をピークに減少に転じる**見込みである。
- ・65歳以上の人口の割合が全人口の21%を占める「**超高齢社会**」に突入している。
- ・14歳以下の**年少人口は減少する見込み**となっている。



資料：平成27（2015）年までは、「国勢調査*」（総務省）
 令和2（2020）年以降は、社人研から発表された推計値
 ※あくまでも過去の状況から推計されたものであり、今後の都市開発等の政策的要因を加味したものではありません。

さいたま市スポーツ施設の整備方針 (2022.3)

今後のスポーツ施設整備を計画的に進めていくための中長期を見据えた整備方針が示されている。競泳用の屋外プール施設については以下のとおり。

施設
マネジメントの
基本方針

- 屋外プール(競泳用)
 - **老朽化施設が多い**こと、健康志向を受けて**通年型施設のニーズが高まり**、屋外プール(競泳用)はスポーツ振興の観点からは**ニーズが低下**している。
 - プール(競泳用)が主となっている施設については、**屋内化**を目指し、学校を含む**周辺の公共施設との複合化**等も検討する。
 - **レジャー機能が併設された施設**は、レジャーの側面からの市民ニーズや公園としての機能や役割を考慮して、**改廃について個別に検討**が必要となる。

本検討の必要性

スポーツ施設の
整備方針

■屋外プール(競泳用)

施設規模等	現状の該当施設	方針
50mと25mの公認で、数千席の観客席を持つ競泳用プール	該当施設なし	整備予定なし
25mもしくは50mの公認で、観客席を持つ競泳用プール	沼影公園 (50mプール) 大宮公園水泳場(県営)	社会情勢や財政的観点等を勘案した上で、今後のあり方を検討 県に対し、当面の維持を要望
25m程度の競泳用プール	原山市民プールなど3施設 、市立小中学校のプール	建替え等の際に 屋内化 、周辺公共施設との 複合化 等も検討

1. 検討の背景と目的

武蔵浦和駅周辺地区小・中学校 過大規模校・大規模校の解消について (2020.12都市経営戦略会議)

- 武蔵浦和駅周辺地区小・中学校の過大規模校及び大規模校の解消に向け、**沼影公園用地に、新設校を設置する。**
- 沼影小学校解体後の跡地利用として、**体育館等のスポーツ施設を新設**することを前提に検討を進める。
- 沼影公園解体後、現状と**同規模の公園用地の代替地を確保**する。



レジャープールの方向性を整理する旨が述べられている

事業	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
学校関係	基本計画	基本計画	実施設計	建設工事			新設校 開校	沼影小 解体
沼影公園関係	事前調査	解体実施	解体工事	都市計画決定解除				
スポーツ施設関係			整備手法等の検討	基本計画	基本設計	実施設計		

※ R11年度建設工事着工予定

中央区役所周辺の公共施設再編方針 (2022.3)

中央区役所周辺の公共施設の更新や機能の再編に際し、下落合プールが再編対象の公共施設に含まれ、他施設との複合化などが検討されている。

再編対象となる公共施設

与野本町駅周辺地区の中心拠点として、公共サービス提供の核、文化・交流機能を有する施設を対象としており、**下落合プールも再編対象施設**に含まれている。



施設配置のイメージ(案)

新たな施設配置のイメージ(案)では、「公共エリア」に建設する**複合施設の中で「プール」の整備**が想定されている。



1.検討の背景と目的

背景

- 海なし県に位置する本市では、娯楽・レジャー目的で夏季のみ営業しているレジャープールが5施設あり、夏の思い出づくりに欠かせない施設となっている。
- いずれも、1970年代から1980年代に整備し、現在に至っているものであり、必ずしも**現在の本市における全体最適を考慮したものとはいえない**。
- **沼影市民プール**は義務教育学校の建設に伴って令和5年度末に**廃止予定**。
- **下落合プール**は中央区役所周辺の公共施設再編に合わせて、**屋内プールのみが再整備**される予定。



目的

将来的な設置意義を踏まえ、本市の**レジャープール**について、**中長期的な視点から今後のあり方を示す**必要がある。

2. 周辺自治体の動向

周辺でスライダー等があるレジャープールの位置図

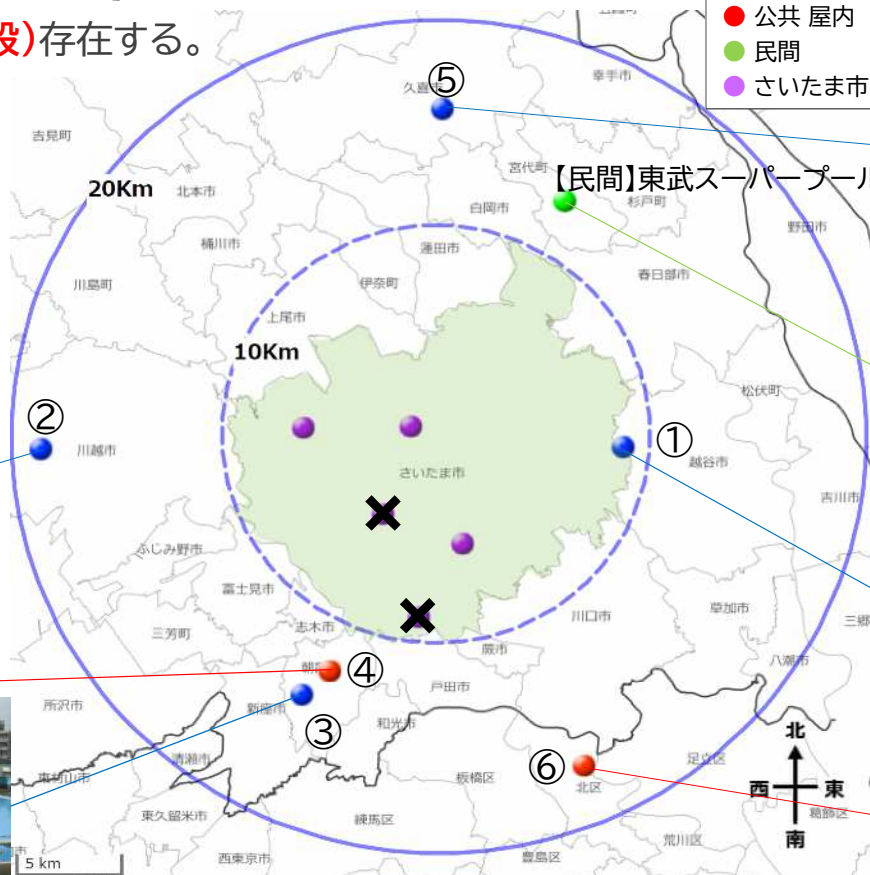
- 市の周辺(20km圏内)には、スライダープール、流水プール等を有するレジャープールが**7施設(公共6施設、民間1施設)**存在する。

自治体名	プール施設の名称	プール種別		開設年度
		屋外 (夏季)	屋内 (通年)	
① 埼玉県	しらこぼと水上公園	●		1972(S47)
② 埼玉県	川越水上公園	●		1988(S63)
③ 朝霞市	溝沼子どもプール	●		1988(S63)
④ //	朝霞市健康増進センター (わくわくどーむ)		●	1994(H6)
⑤ 久喜市	市民プール*	●		1990(H2)
⑥ 北区	元気プラザ		●	1998(H10)

※久喜市民プールはR4年度より当面の間休止中

【凡例】

- 公共 屋外
- 公共 屋内
- 民間
- さいたま市



2. 周辺自治体の動向

レジャープールの保有状況

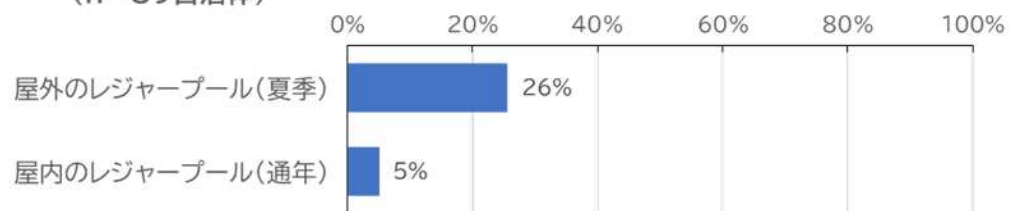
【調査・分析の対象】

- ✓ 埼玉県内の自治体（市部のみ39自治体）
- ✓ 首都圏の政令指定都市（千葉市、横浜市、川崎市、相模原市）

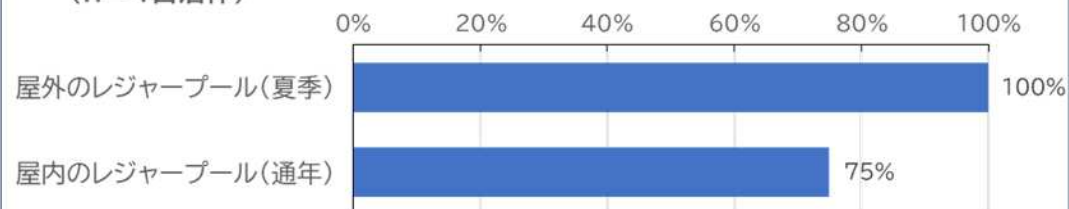
- 埼玉県内の自治体では、**約26%(10自治体)**が屋外のレジャープールを保有している。
- **屋内のレジャープールは約5%(2自治体)**が保有している。
- 政令指定都市では**4自治体全てで屋外のレジャープールを保有**している。
- 屋内のレジャープールは、**3自治体で保有**している。

自治体が保有しているレジャープールの種別

埼玉県内の自治体(市部) (n=39自治体)



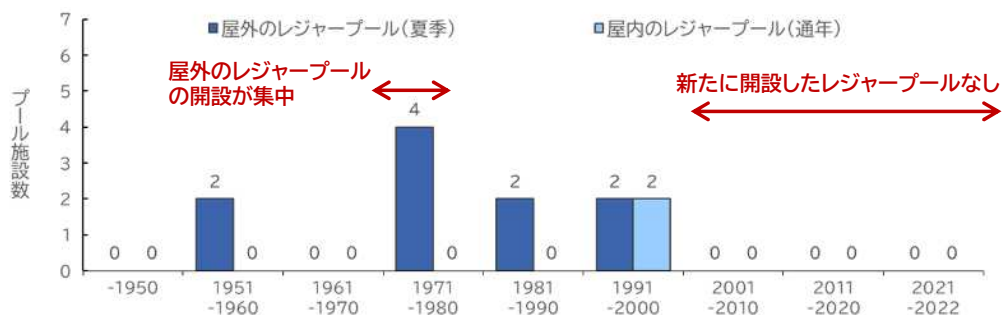
首都圏の政令指定都市 (n=4自治体)



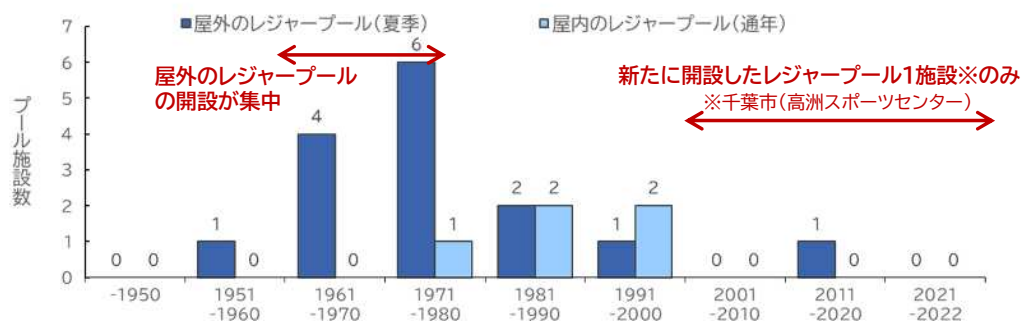
2. 周辺自治体の動向

開設年度別の施設数の推移

■ 埼玉県内の自治体(市部)【39自治体】



■ 首都圏の政令指定都市【4自治体】



- 屋外のレジャープールについて、県内自治体では1970年代に、政令指定都市は1960～1970年代に開設時期が集中
- **2000年代以降に開設したレジャープールは1施設のみ**

過去10年以内に廃止されたレジャープール（埼玉県内）

自治体名	プール施設の名称	廃止年度	廃止の主たる理由（複数回答）				
			老朽化の進行	財政状況の悪化	利用者数の減少	安全管理上の都合	その他
春日部市	市民プール	2013	●		●	●	
狭山市	南入曽公園プール	2013	●				
新座市	片山ファミリープール	2017	●				
川口市	流水プール場	2021	●		●		駐車場拡大
加須市	加須市民運動公園親子プール	2021	●			●	
新座市	大和田ファミリープール	2021	●				
富士見市	富士見ガーデンビーチ	2021	●				
吉川市	吉川市市民プール	2021	●		●	●	
埼玉県	さいたま水上公園	2021	●				
熊谷市	熊谷さくら運動公園	2022	●			●	

- 過去10年、埼玉県内では**10施設のレジャープールが廃止**。全施設が廃止理由の一つに、「**老朽化の進行**」をあげている。
- 廃止年度は、10施設のうち**7施設が2020年度以降に集中**しており、コロナ禍での長期間の休園が施設の劣化を加速化させ、**安全管理上、廃止もやむを得ない**と判断されたものと推測

2.周辺自治体の動向

レジャープールの利用料金の比較

- 他自治体のレジャープールでは、大人1回あたり**300円～500円**程度
- 本市のレジャープールの料金は、他自治体と比べても**高すぎず、安すぎず**、同程度といえる。

さいたま市及び県内自治体のレジャープールの利用料金(主な料金区分のみ抜粋)

自治体名	プール施設の名称	市民		市外	
		大人	小学生・こども	大人	小学生・こども
さいたま市	大和田公園プール	440円/1回	220円/1回	880円/1回	440円/1回
〃	原山市民プール	440円/1回	220円/1回	880円/1回	440円/1回
〃	沼影市民プール(屋外)	440円/1回	220円/1回	880円/1回	440円/1回
〃	三橋プール	230円/1回	110円/1回	460円/1回	220円/1回
〃	下落合プール(屋外)	320円/1回	110円/1回	640円/1回	220円/1回
川越市	初雁公園プール	200円/2時間	50円/2時間	400円/2時間	100円/2時間
行田市	行田市民プール(屋外)	150円/1時間	70円/1時間	230円/1時間	110円/1時間
秩父市	秩父ミュージックパーク スポーツの森プール	900円/1回	400円	1,800円/1回	800円
所沢市	北野公園水泳プール	480円/1回	160円/1回	(市内・市外同一料金)	
狭山市	狭山台プール	300円/1回	100円/1回	(市内・市外同一料金)	
深谷市	深谷グリーンパーク パティオ	800円/1回	400円/1回	2,000円/3時間	1,000円/3時間
朝霞市	朝霞市健康増進センター (わくわくどーむ)	400円/2時間 (超過200円/時)	200円/2時間 (超過100円/時)	800円/2時間 (超過400円/時)	400円/2時間 (超過200円/時)
久喜市	市民プール	500円/1回	200円/1回	(市内・市外同一料金)	
三郷市	早稲田公園プール	300円/1回	100円/1回	600円/1回	200円/1回
坂戸市	坂戸市民プール	500円/1回	200円/1回	1,000円/1回	400円/1回
日高市	市民プール	300円/1回	100円/1回	(市内・市外同一料金)	
埼玉県	川越水上公園	730円/1回	210円/1回	(市内・市外同一料金)	
埼玉県	しらこぼと水上公園	730円/1回	210円/1回	(市内・市外同一料金)	

2. 周辺自治体の動向

レジャープール等の再整備の状況・事例

国営昭和記念公園(レインボープール)【立川市・昭島市】

(公園事務所ヒアリングより)

- 2020年はコロナウイルス拡大のため営業を休止。2021年は開園しようとしたがプールシステムの循環ポンプが故障したため営業休止。そして、**改修費用が想定以上の高額となるため、改修ではなく、再整備の検討を優先**することとし、2022年も営業を休止している。
- 「水のゾーン」の再整備は公民連携で行う。事業者には提案を求める機能として、水あそび広場のような**親水機能は必須だが、レジャープール機能は必須ではない**としている。
- 事業収支を合わせる必要があるため、**親水機能以上の機能は民間提案**に委ねていく。



わくわくどーむ【朝霞市】

- 健康維持・増進と体力づくりを目的に、4種類の温水プール(25mプール、流水プール等)、リフレッシュルーム(大浴場、サウナ等)、トレーニングルーム完備
- コロナ禍以前は、年間**約15万人**が利用



年度	利用者総数	施設別利用者数			温水プール利用率
		温水プール	リフレッシュルーム	トレーニングルーム	
2018	286,581人	160,145	29,106	97,330	56%
2019	259,109人	147,314	24,394	87,401	57%
2020	147,409人	97,668	11,526	38,215	66%

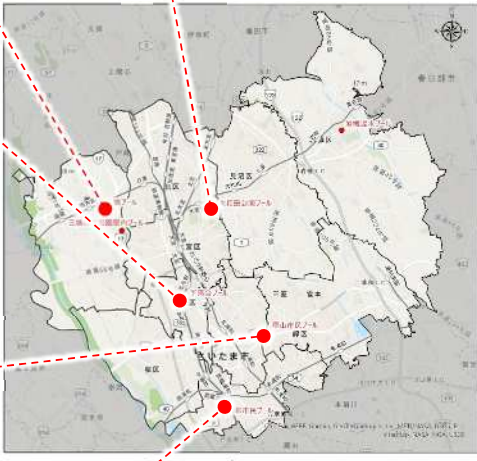
いろは親水公園【志木市】

- 公共プールを保有していない志木市において、都市公園法の**公募設置管理制度(Park-PFI)**により事業者を公募し、**親水公園(じゃぶじゃぶ池)**を整備



3.現状

(1)市内のレジャープールの保有状況



レジャープールの位置図



さいたま市のレジャープールとその他の公共プールの概要

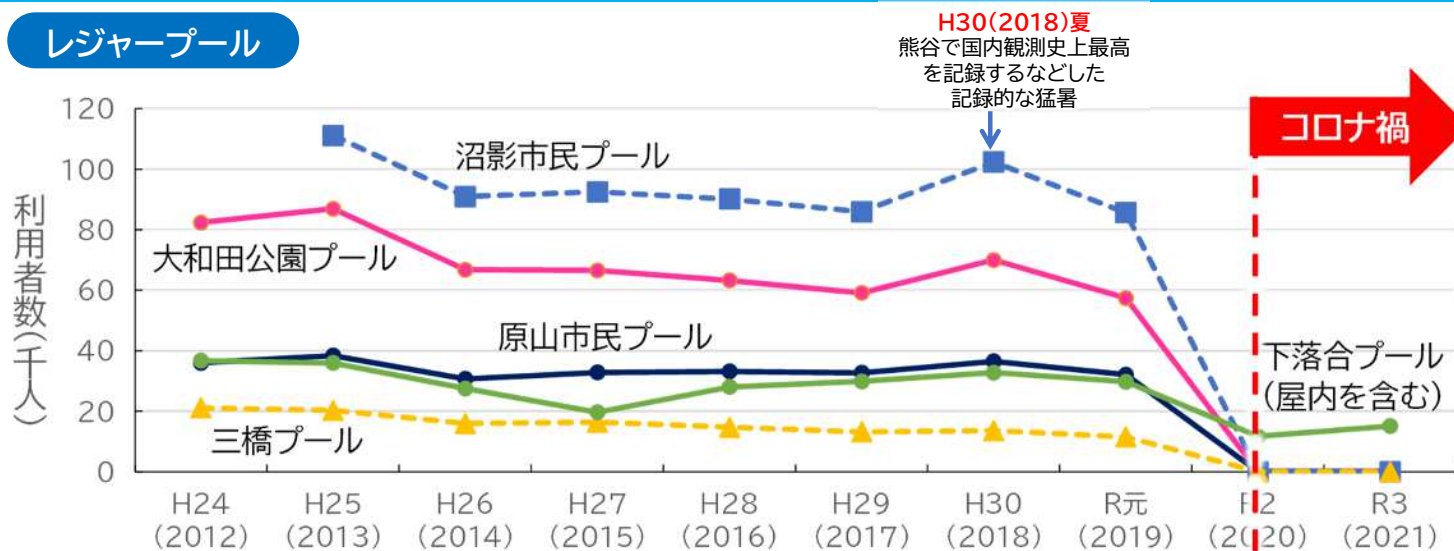
所管課	プール名称	所在地	開設年 (経過年)	プール部分 敷地面積 (m ²)	プール種別		主な利用用途(◎:主用途)			施設機能
					屋内 (通年)	屋外 (夏季)	娯楽 レジャー	健康増進、 医療、福祉	競技、 トレーニング	
都市公園課	大和田公園 プール	大宮区	1984 (38年)	29,809		●	◎	○	○	流水プール、造波プール、幼児プール、スライダー、50m競泳プール、噴水広場
	沼影市民 プール	南区	1971 (51年)	20,071	●		◎	○	○	流水プール、スライダー、子供プール、幼児プール、50m競泳プール(公認)
	原山市民 プール	緑区	1979 (43年)	7,917		●	◎	○		流水プール、スライダー、幼児プール、子供プール、25mプール
	三橋プール	西区	1982 (40年)	4,945		●	◎			流水プール、幼児プール
	下落合 プール	中央区	1972 (50年)	6,662	●		◎			幼児プール、50mプール、飛込プール 25mプール
	三橋総合公園 プール	西区	1993 (29年)	6,600	●			◎		25mプール(屋根開閉式)
	岩槻温水 プール	岩槻区	1990 (39年)	2,273	●			◎		幼児プール、25mプール
スポーツ振興課	サイデン化学 アリーナ	桜区	2003 (19年)	13,895 (建築面積)	●			◎	○	25mプール
市民生活安全課	見沼ヘルシー ランド	緑区	1987 (35年)	7,320	●			◎		幼児プール、25mプール
高齢福祉課	健康福祉センター 西楽園	西区	1996 (26年)	2,662 (建築面積)	●			◎		幼児プール、25mプール

3.現状 (2)利用状況、収支状況

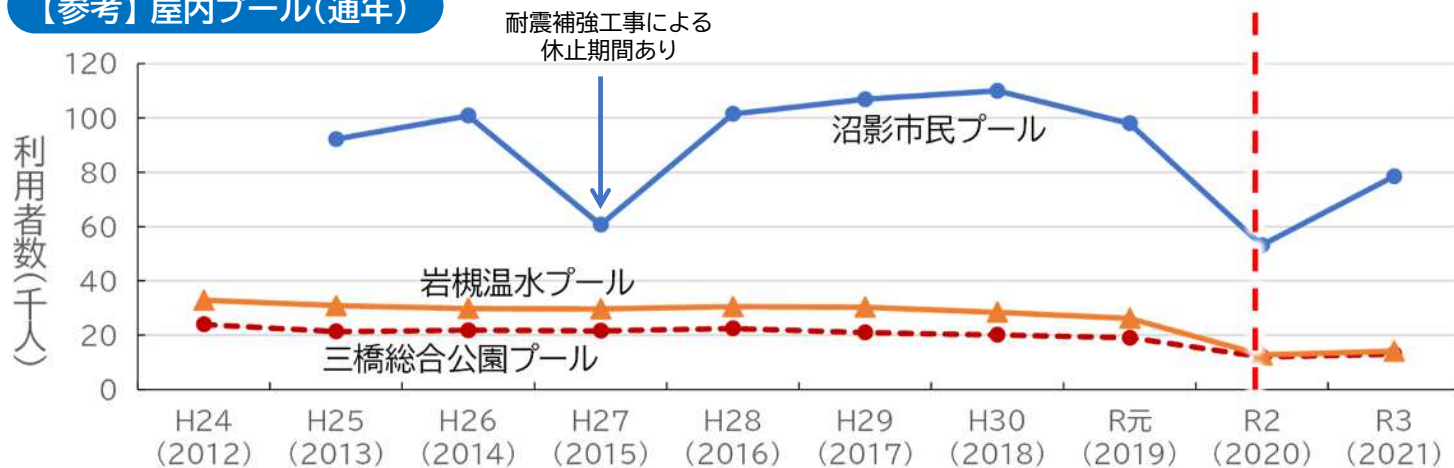
利用者数の推移

- レジャープールの利用者は、コロナ禍前の2019年度まで、猛暑による変動はあるものの**横這い**或いは**緩やかな減少傾向**にある。

レジャープール



【参考】屋内プール(通年)



レジャープール

単位:千人

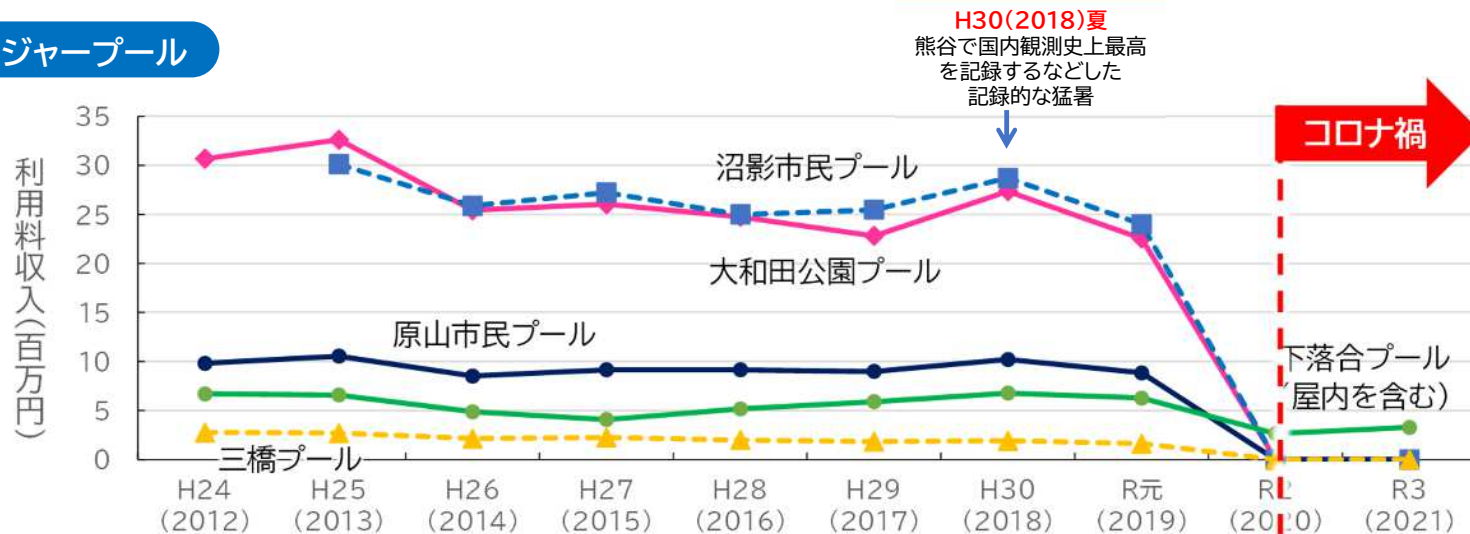
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
大和田公園プール	82	87	67	67	63	59	70	57	-	-
沼影市民プール	-	111	91	92	90	86	102	86	-	-
原山市民プール	36	38	31	33	33	33	36	32	-	-
三橋プール	21	20	16	16	15	13	14	12	-	-
下落合プール【屋内含む】	37	36	28	20	28	30	33	30	12	15

3.現状 (2)利用状況、収支状況

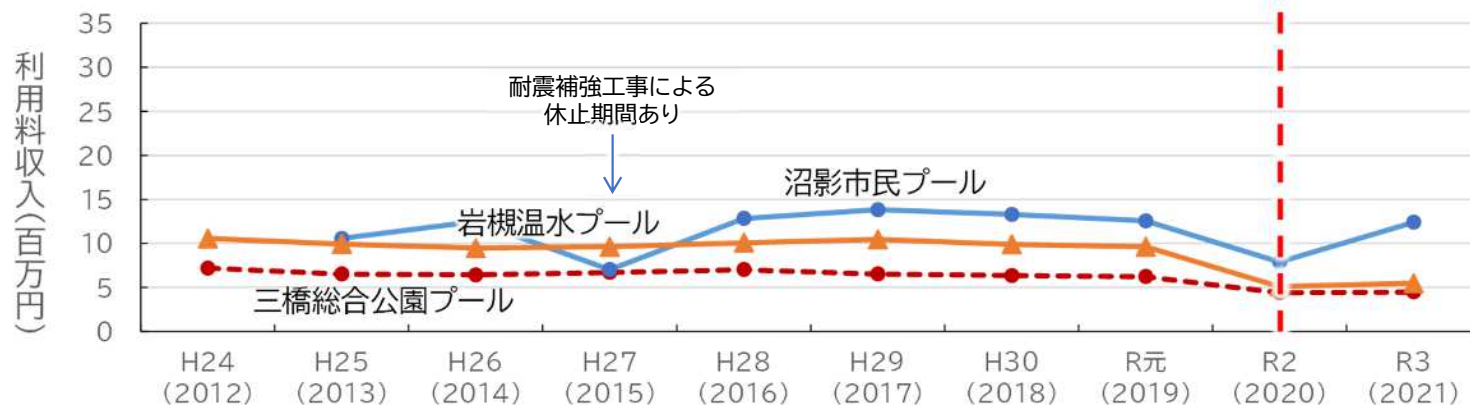
利用料収入の推移

- レジャープールの利用料収入は、コロナ禍前の2019年度まで、猛暑による変動はあるものの**横這い**或いは**緩やかな減少傾向**にある。

レジャープール



【参考】屋内プール(通年)



レジャープール

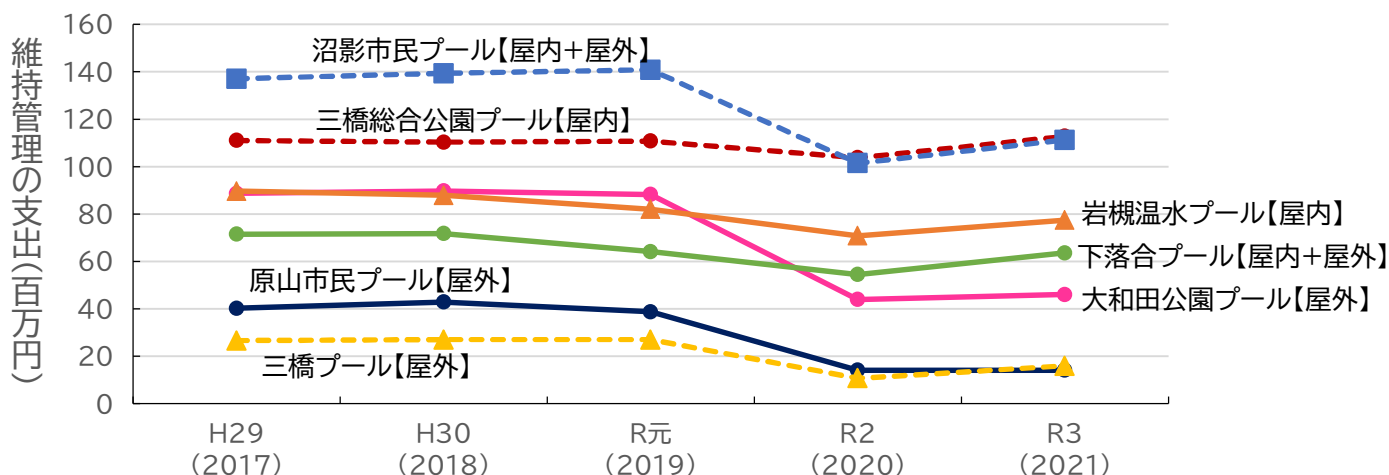
単位: 百万円

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
大和田公園プール	30.7	32.6	25.4	26.0	24.8	22.8	27.3	22.5	-	-
沼影市民プール	-	30.1	25.9	27.2	25.0	25.5	28.7	24.0	-	-
原山市民プール	9.8	10.6	8.5	9.2	9.2	9.0	10.2	8.8	-	-
三橋プール	2.8	2.7	2.1	2.3	2.0	1.8	1.9	1.6	-	-
下落合プール(屋内含む)	6.7	6.6	4.9	4.1	5.2	5.9	6.8	6.3	2.7	3.3

3.現状 (2)利用状況、収支状況

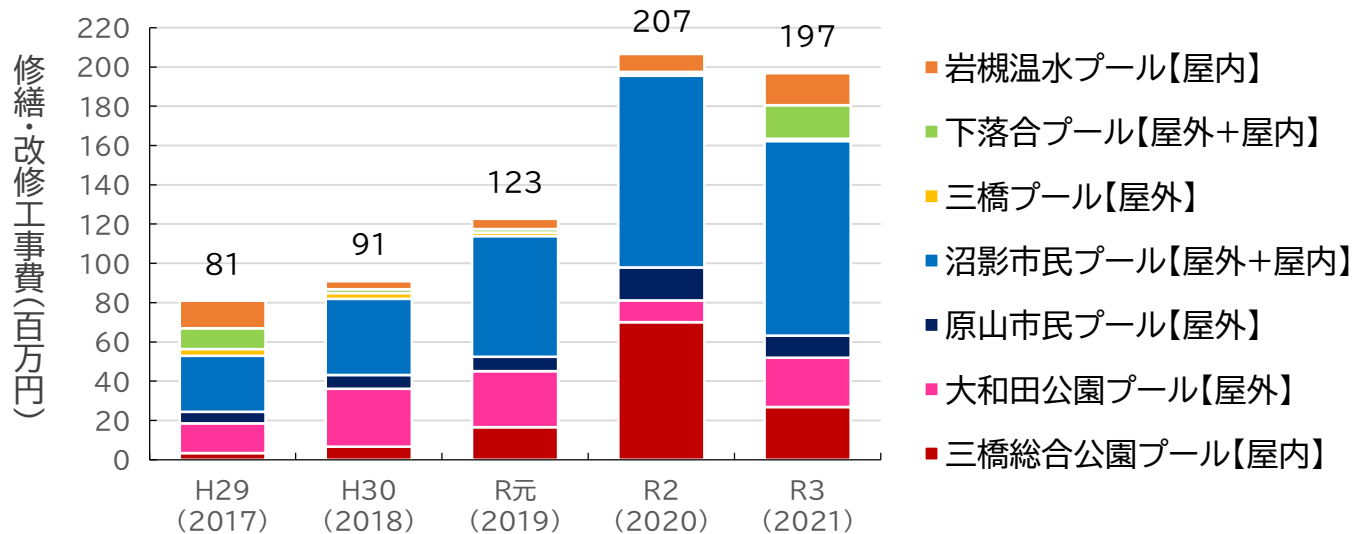
維持管理に伴う支出の推移

- コロナ禍前の光熱水費や人件費等の維持管理費は、一番少ない三橋プールで年間2,000万円以上、総合的な施設が揃う大和田公園プールは年間8,000万円以上かかっている。



修繕・改修工事費の推移

- 年々増加傾向にあり、コロナ禍で休園していた2020年度から2021年度は大きく支出が増えている。特に沼影市民プールの支出が突出している。
- 長期間の営業休止中にしかできない修繕を実施したことや、長期間の営業休止によって設備の劣化が進んだことにより、修繕や改修費用の増大を招いている。

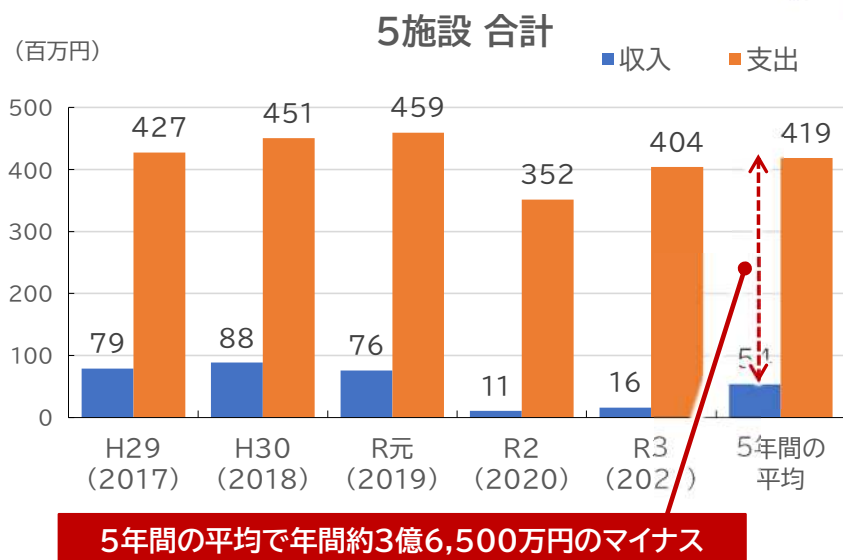
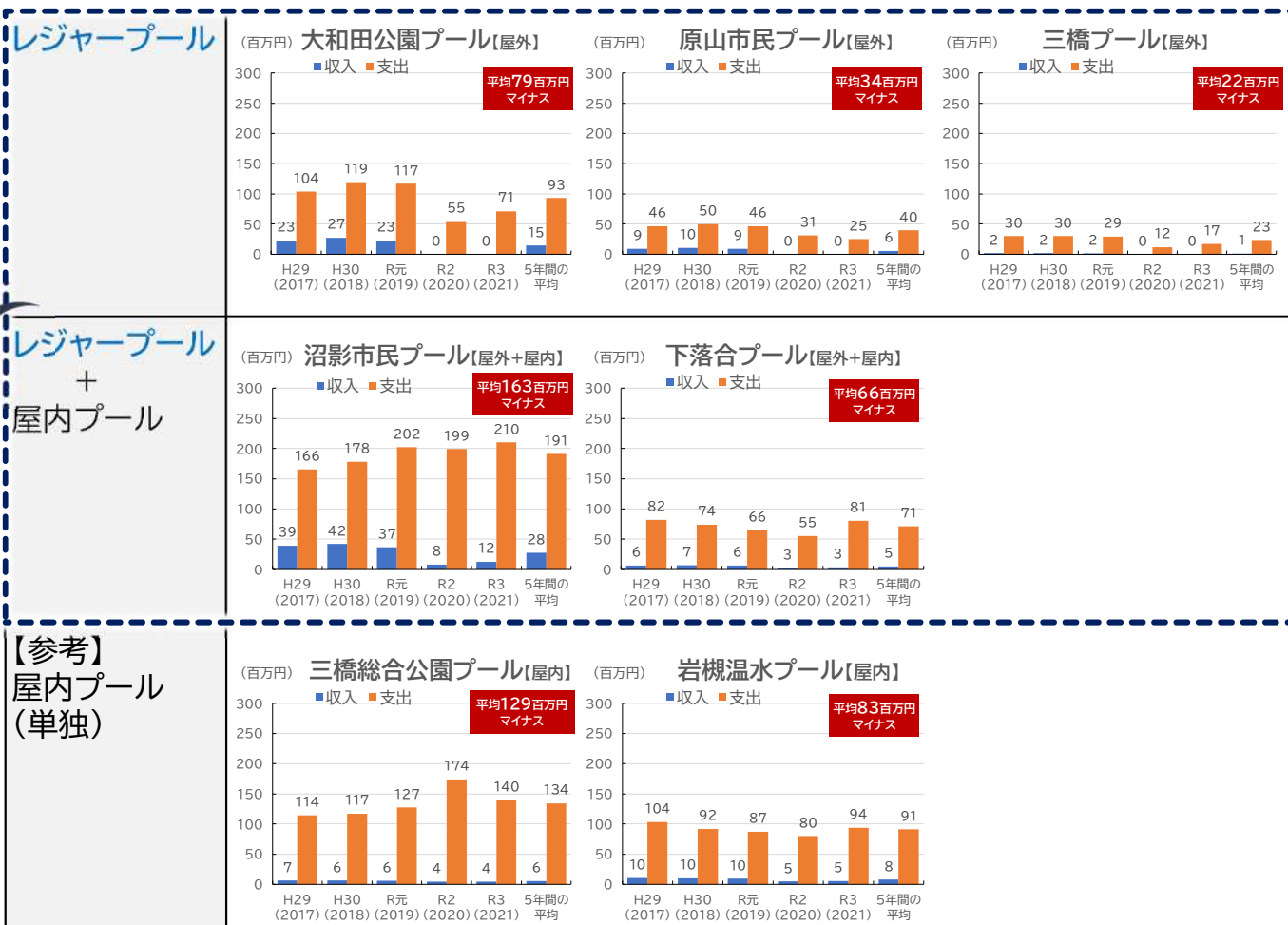


3.現状 (2)利用状況、収支状況

レジャープールの収支状況のまとめ

収入：利用料収入
 支出：維持管理費(光熱水費、簡易修繕費、人件費等)+修繕・改修工事費(市負担分+指定管理者負担分)

- 年間の収支は、支出が収入を大幅に超過している。
- レジャープール5施設の合計は、5年間の平均で、収入が約5,400万円、支出が約4億1,900万円であり、収支は**年間約3億6,500万円の支出超過(マイナス)**である。



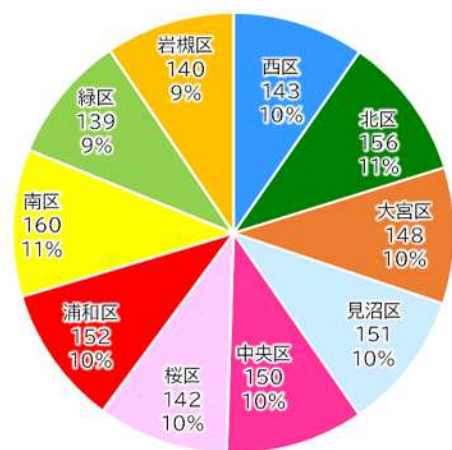
3.現状 (3)市民の意向

WEBアンケート調査

- 市民の目線から見たプール施設に対する意向や要望を把握するため、20～70代の男女を対象にWEBアンケート調査を実施（期間 10/28～11/14）
- 年代別、男女別、居住区のバランスを考慮して1,481人より回収

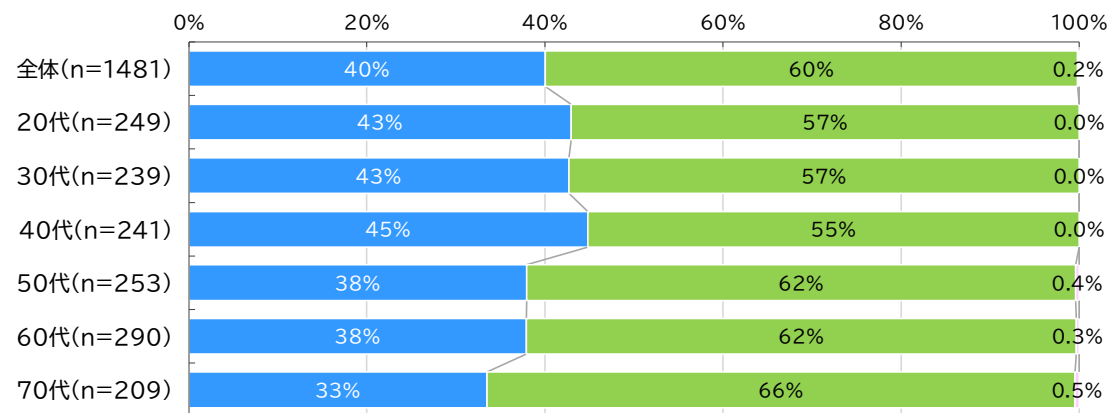
単位：人

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	129	117	120	123	126	122	737
女性	120	122	121	130	164	87	744
合計	249	239	241	253	290	209	1,481



公共プールの利用意向

- 「公共プールを**利用したことがある、利用したいと思っている**」と回答した人は**全体の約40%**

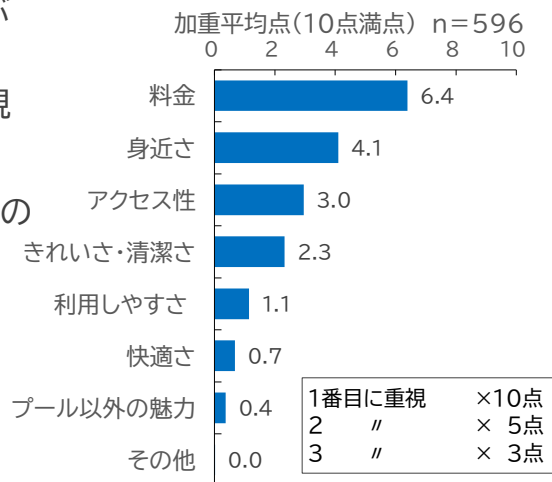


- 公共プールを利用したことがある。または、利用したいと思っている。
- 公共プールを利用したことはない。利用したいとは思わない。または、民間プール施設を利用している。
- その他

3.現状 (3)市民の意向

公共プールを選ぶ際に重視する条件(1~3位まで)

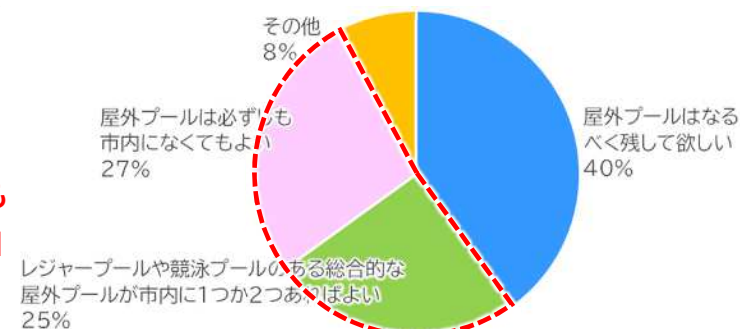
- 公共プールを選ぶ際の条件として、**「料金」**を最も重視
- 次いで「身近さ」、**「アクセス性」**などの**立地条件**



- 料金 (民間プールよりも安く利用できる、できるだけ安く遊べる 等)
- 身近さ (徒歩や自転車で行ける場所にある 等)
- アクセス性 (自動車や公共交通機関等でアクセスしやすい、駐車場が広い 等)
- きれいさ・清潔さ (更衣室・トイレ等の建物やプールが清潔・安全である 等)
- 利用しやすさ (一年を通じて利用できる、早朝・夜間も利用できる 等)
- 快適さ (暑さ寒さ・天候を気にせず利用できる、日焼けを気にせず利用できる 等)
- プール以外の魅力 (売店や飲食店が充実、トレーニングジムやサウナなどが充実 等)
- その他

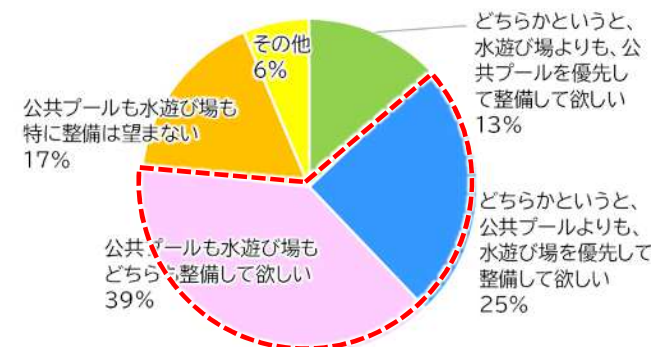
屋外の公共プールの整備に対する意向

- 屋外プールについて、「なるべく残して欲しい」が最も多く40%
- 「市内に1つか2つあればよい」、「必ずしも市内になくてもよい」を合わせ、**集約・再編の意向は約52%**



水遊び場(じゃぶじゃぶ池等)の整備に対する意向

- 「公共プールも水遊び場もどちらも整備」、「どちらかというと公共プールよりも水遊び場を優先して整備」を合わせて**約64%が「水遊び場」の整備について肯定的**



3.現状 (3)市民の意向

居住区ごとのプール利用特性

北部エリア(西区、北区、大宮区、見沼区)の市民は、大和田公園プールと三橋プールを主に利用

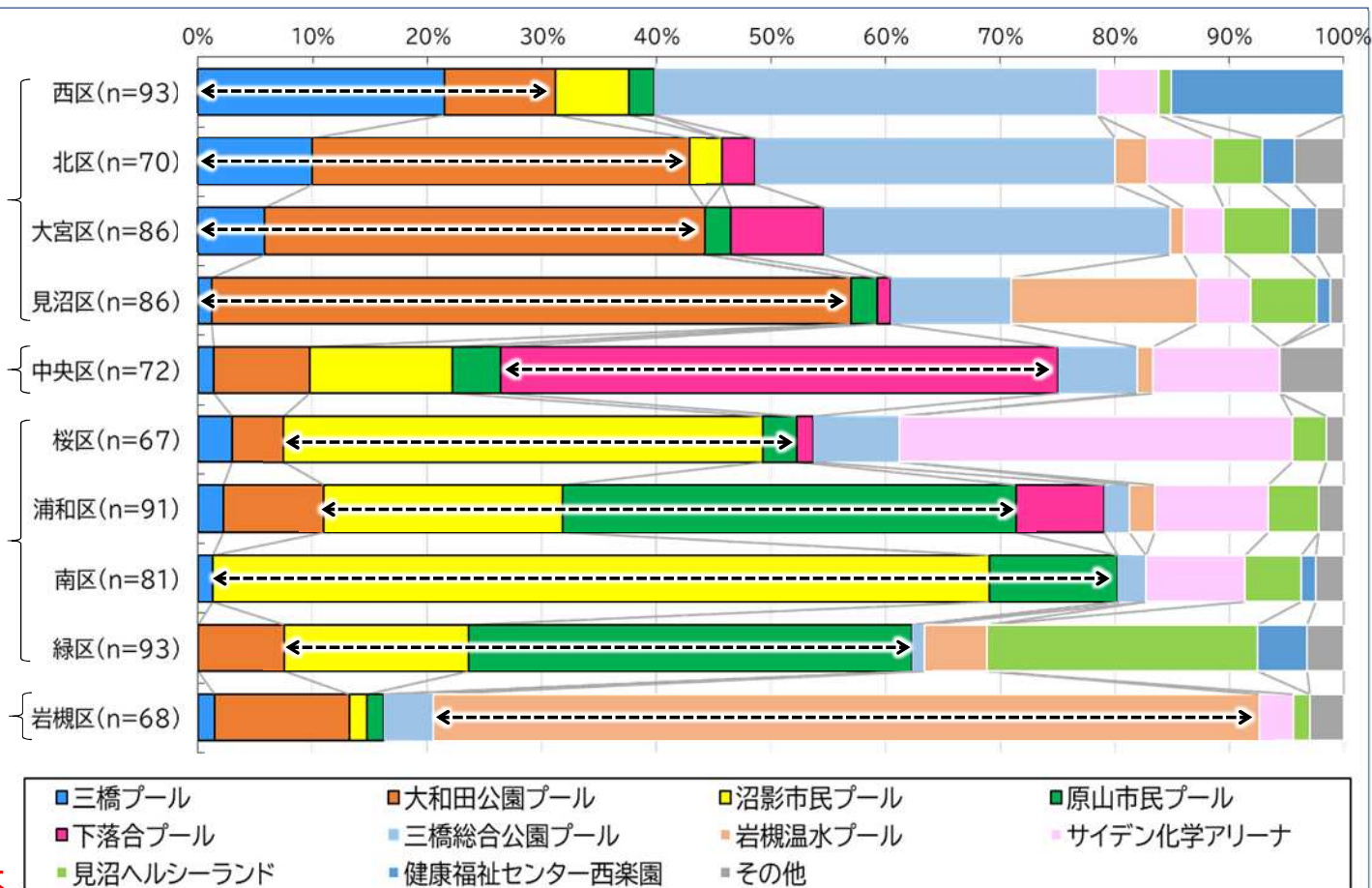
中央区の市民は、下落合プールを主に利用

南部エリア(桜区、浦和区、南区、緑区)の市民は、沼影市民プールと原山市民プールを主に利用

岩槻区の市民は、岩槻温水プールを主に利用



北部エリアでは大和田公園プール、南部エリアでは沼影市民プールおよび原山市民プールでバランスよく利用されている。



現状のまとめ

収支状況等に関すること

- 現在ある5施設はいずれも1970年代から1980年代に建設されたものである。
- 利用料収入が横ばいあるいは緩やかな減少傾向にある。
- 総合的な施設が揃う大和田公園プールでは、年間8,000万円以上の維持管理費がかかっている。
- 現在の5施設の収支は、年間約3億6,500万円の支出超過となっている。
- 市民が公共プールを選ぶ条件として、「料金」を最も重視している。

利用状況等に関すること

- 現在の5施設は、旧市から引き継いでおり、全体最適を考慮したものではない。
- 5施設のうち、沼影市民プールおよび下落合プールは、廃止・解体の予定である。
- 利用者数は横ばいあるいは緩やかな減少傾向にある。
- 市民が公共プールを選ぶ条件は、「料金」の次に身近さ、アクセス性などの「立地条件」を重視している。
- 現在は、北部エリアでは大和田公園プール、南部エリアでは原山市民プールと沼影市民プールがバランスよく利用されている。

現状を踏まえた課題

レジャープール5施設はいずれも老朽化が進んでおり、今後さらに維持管理・修繕改修工事費がかかることが予想される。

一方、利用料収入は今後減少することが考えられる。

➡ 中長期的な視点から、**財政負担の軽減を図る**必要がある。

沼影市民プールと下落合プールが廃止・解体となることから、南部エリアでは需要の不均衡が生じる恐れがある。

また、北部エリアに偏った配置となる。

➡ 今後利用者が減少することを見据え、**集約・再編などにより、地域バランスを考慮した配置の検討**が必要である。

5.課題解決の方向性

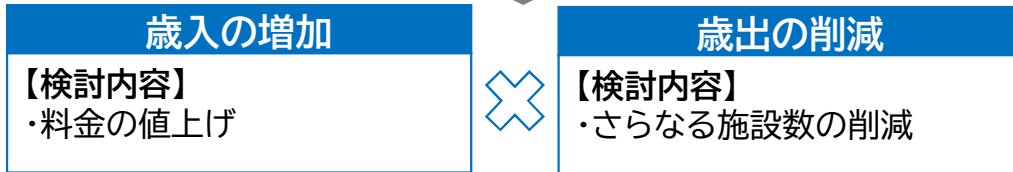
(1)財政負担の軽減

財政負担の軽減

- 現在は年間約3億6,500万円の支出超過である。
- 現在のレジャープール5施設を、今後も新設やリニューアルをしながら維持する場合、2050年までの28年間で、**支出が約150億円、収入が約15億円**という試算結果になる。
(約135億円の支出超過(年間約4.8億円))



- このまま**現在の施設数を維持する場合、財政負担が大きい。**

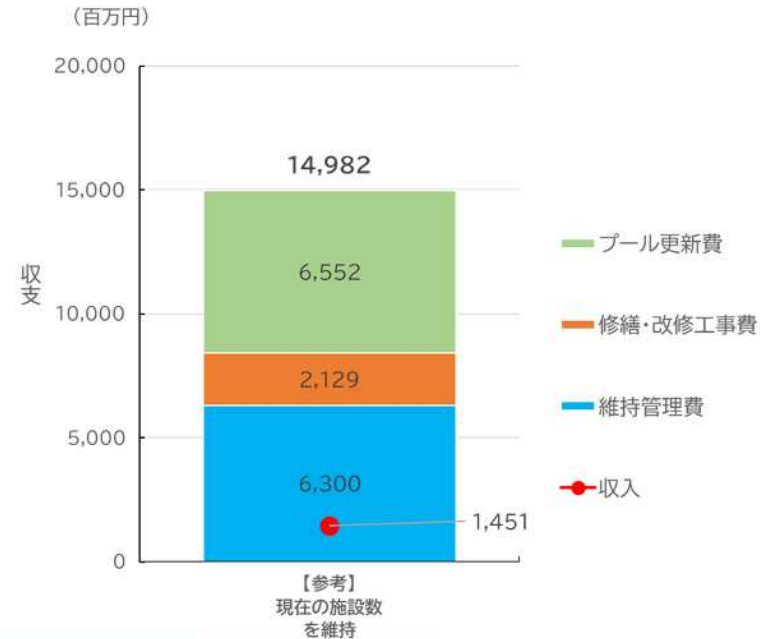


※ 併せて、公民連携事業の導入も検討

【コスト算出の条件】

- 築60年が経過した場合に同規模同面積で施設を更新する。
- すでに廃止・解体が決まっている沼影市民プールと下落合プールも同規模で再整備する。
- 新設、更新をした場合でも、利用料金は現在と同じとする。
- 下のグラフに加え、解体費が4,495百万円かかる。

2050年まで(28年間)の収支の合計



支出超過額(百万円)
※解体費は除く

13,530
(約4.8億円/年)

5.課題解決の方向性

(1)財政負担の軽減

利用料金の値上げ

- 利用者数がコロナ禍前と変わらないと仮定し、受益者負担割合を30%および50%とした場合の一人当たり負担増加額を試算。

- ・受益者負担割合30%:**340円の値上げ**が必要
- ・受益者負担割合50%:**720円の値上げ**が必要

- プールのリニューアルや公民連携手法の導入等で、施設の魅力度が向上する際に、利用料金の値上げを行うことを前提とすると、他市事例も踏まえ、利用料金1,000円以上の設定は妥当。



新設・更新の際に**受益者負担割合50%での値上げ**で検討する。

利用料金見直し後の各施設の利用料金

プールの名称	利用者数(人) (R元年度実績)	現在の大人の 利用料金	受益者負担割合50% による大人の利用料金
大和田公園プール	57,409	440円/回	1,160円/回
沼影市民プール	85,639	440円/回	1,160円/回
原山市民プール	32,102	440円/回	1,160円/回
三橋プール	11,523	230円/回	950円/回
下落合プール	29,772	320円/回	1,040円/回

受益者負担割合の見直しによる一人当たり負担増加額の試算

	現状	受益者負担割合の見直し		備考
		30%	50%	
a 受益者負担割合	13%	30%	50%	= $(c+d)/b$
b 支出 (百万円)	419	419	419	5年間(H29-R3)平均
c 現在の料金設定による収入(百万円)	54	54	54	5年間(H29-R3)平均
d 値上げによる収入増(百万円)	-	72	156	= $a*b-c$
e 利用者数 (千人)	217	217	217	令和元年度 実績値
f 1人当たり負担増加額 ^{※1} (円/人)	0	340	720	= $(d*10^6)/(e*10^3)$

※1 実際には施設ごとに料金が異なるが、現在の料金設定額に関わらず、一律に負担すると仮定

【参考】県内及び関東の総合型レジャープール(屋外)の料金

区分	プール施設	所在地	大人(円)
公共	しらこぼと水上公園	埼玉県越谷市	730
	井頭公園一万人プール	栃木県真岡市	1,300
	稲毛海浜公園プール	千葉県千葉市	1,600
民間	東武スーパープール	埼玉県白岡市	1,300
	西武園ゆうえんちプール	埼玉県所沢市	2,900
	東京サマーランド	東京都あきる野市	4,200
	よみうりランド プールWAI	東京都稲城市	3,300

5.課題解決の方向性

(2)地域バランスを考慮した配置の検討

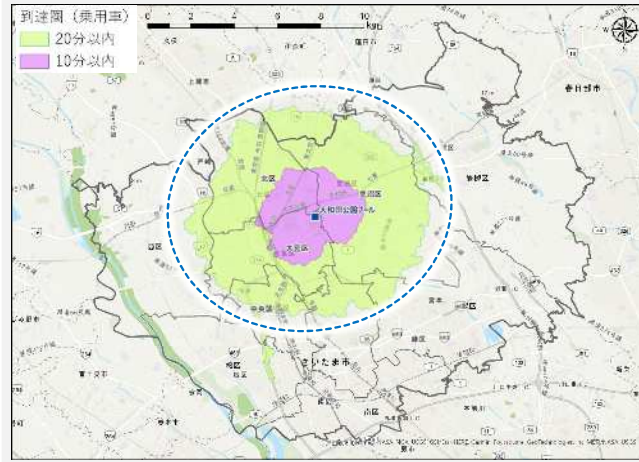
アクセシビリティを踏まえた地域バランスの検証

- 北部エリアでは、大和田公園プールから**自動車**で**20分以内**の範囲で、概ね**北部4区**(西区、北区、大宮区、見沼区)を**カバー**している。
 - 南部エリアでは、沼影市民プールから**自動車**で**20分以内**の範囲で、概ね**南部4区**(中央区、桜区、浦和区、南区)を**カバー**している。
 - なお、東部エリアは、越谷市との市境に立地する**県営しらこぼと水上公園**があり、概ね**岩槻区と緑区**を**カバー**している。
- ※ 三橋プール、原山市民プールは駐車場がほとんどなく、広域利用が見込めないと判断し、検証の対象外とした。

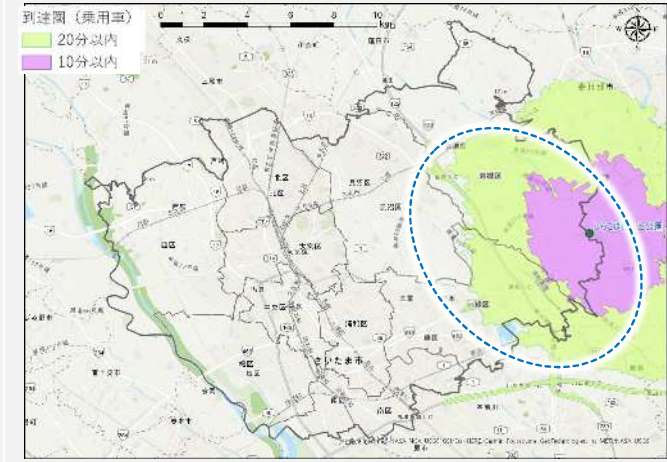


- 北部エリアでは、**大和田公園プールがあれば広域からの利用が可能**。
- 南部エリアは、沼影市民プールが廃止されるため、今の原山市民プールでは駐車場がなく、カバーできない。そのため、沼影市民プールの**代替プールの新設、または原山市民プールのリニューアルが必要**。

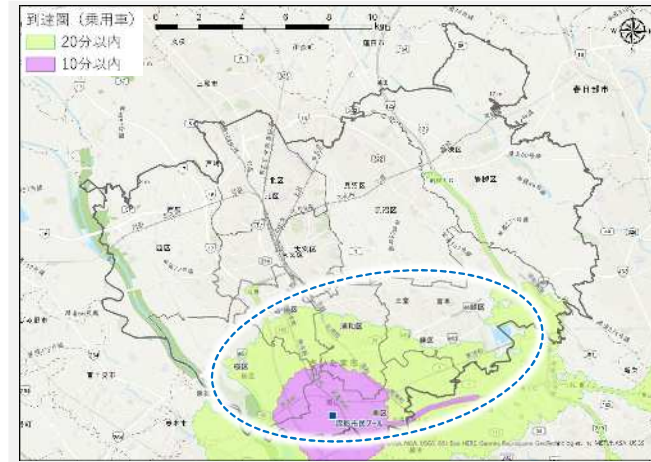
【北部エリア】 大和田公園プール(大宮区)



【東部エリア】 県営しらこぼと水上公園 (越谷市)



【南部エリア】 沼影市民プール (南区)



プールを起点とした自動車による時間到達圏

自動車の到達時間をGISを用いて分析して図化

5.課題解決の方向性

(2)地域バランスを考慮した配置の検討

利用者数を踏まえた地域バランスの検証

沼影市民プール・下落合プール廃止後の位置図

北部エリアには、大和田公園プールで広域利用が見込める。



南部エリアには、広域利用が見込めるプールが存在しない

- 広域からの利用が見込めるプール
- 駐車場がほとんどなく、地域利用が主なプール

- 年少人口が減少し、今後、利用者数も減少することを考慮した場合、令和27年度までに年少人口が11%減少することが推測される。



社人研発表の推計値より算出

	H27-R1の年間 最多利用者数	H27-R1の 平均利用者数	補正 -11%	R27利用者数 (推計値)
大和田公園 プール	70,001	63,276	×0.89	56,315
沼影市民 プール	102,365	91,300		81,257
原山市民 プール	36,487	33,462		29,781
三橋プール	16,381	13,884		12,357
下落合プール 【屋内含む】	32,769	28,026		24,943

収容
可能

収容
不可

- 北部エリアでは、三橋プール利用者を大和田公園プールに収容できる。



$$\begin{matrix} \text{大和田公園プールの} \\ \text{年間最多利用者数} \end{matrix} > \begin{matrix} \text{大和田公園プールの} \\ \text{R27利用者数} \end{matrix} + \begin{matrix} \text{三橋プールの} \\ \text{R27利用者数} \end{matrix}$$

$$70,001人 > 56,315人 + 12,357人$$

- 南部エリアでは、沼影市民プール利用者を原山市民プールに収容することは難しい。



$$\begin{matrix} \text{原山市民プールの} \\ \text{年間最多利用者数} \end{matrix} < \begin{matrix} \text{沼影市民プールの} \\ \text{R27利用者数} \end{matrix} + \begin{matrix} \text{原山市民プールの} \\ \text{R27利用者数} \end{matrix}$$

$$36,487人 < 81,257人 + 29,781人$$

今の原山市民プールのままでは、利用者を収容することが難しいため、南部エリア内において、新設またはリニューアルが必要。

5.課題解決の方向性

(3)まとめ

集約・再編パターンの提示

- 北部エリアでは、大和田公園プールで広域利用が可能。一方、南部エリアでは広域利用ができるプールは残らない。

南部エリアの広域利用を今後も想定する場合

- パターン1: 沼影市民プールの代替により、広域利用が出来る施設を新設
- パターン2: 原山市民プールを可能な限り広域利用が出来る施設にリニューアル

南部エリアの広域利用は今後想定しない場合

- パターン3: 保有量を最小化し、大和田公園プールのみで対応

※パターン1・パターン2において、廃止となるプールについては、市民ニーズ等を考慮し、親水機能を有した身近な公園整備を想定
 ※各パターンの検討にあたっては、Park-PFIを活用して新設・更新をすることを想定

集約・再編パターン	【パターン1】 大和田公園プール 沼影市民プール代替プール新設 公園整備(原山・三橋)	【パターン2】 大和田公園プール 原山市民プールのリニューアル 公園整備(三橋)	【パターン3】 保有量最小化 (大和田公園プールのみ)
位置図	<p>【凡例】 ● レジャープール ▲ 身近な公園整備</p> <p>沼影市民プールの代替は、南部エリアの中で新設</p>	<p>【凡例】 ● レジャープール ▲ 身近な公園整備</p>	<p>【凡例】 ● レジャープール</p>

6. 集約・再編パターンの検証

集約・再編パターン	【参考】 現在の施設数を維持	【パターン1】 大和田公園プール 沼影市民プール代替プール新設 公園整備(原山・三橋)	【パターン2】 大和田公園プール 原山市民プールのリニューアル 公園整備(三橋)	【パターン3】 保有量最小化 (大和田公園プールのみ)
前提条件	耐用年数(築60年)までは現在の施設を使用することとし、耐用年数到達後は、更新または解体を行う。			
将来の状況	5施設を維持	5施設から2施設に集約	5施設から2施設に集約	5施設から1施設に集約
大和田公園プール	・同規模で単純更新	・公民連携によるリニューアル ・利用料金の増額		
沼影市民プール	・代替地に同規模で再整備	・公民連携により代替地に新設 ・利用料金の増額	×R6年度以降に解体(施設廃止)	
屋内プール	・新たに建設するスポーツ施設内に再整備			
原山市民プール	・同規模で単純更新	・プールを解体し、公民連携により親水機能を有した公園を整備	・公民連携によるリニューアル ・利用料金の増額	×解体(施設廃止)
三橋プール	・同規模で単純更新	・プールを解体し、公民連携により親水機能を有した公園を整備		×解体(施設廃止)
下落合プール	・同規模で再整備	×中央区役所周辺の再編に合わせ、解体(施設廃止)		
屋内プール	・中央区役所周辺の再編に合わせ、解体後、複合施設に同規模で再整備			

6.集約・再編パターンの検証

パターン1:大和田公園プール・沼影市民プール新設・公園整備(原山・三橋)

地域バランス



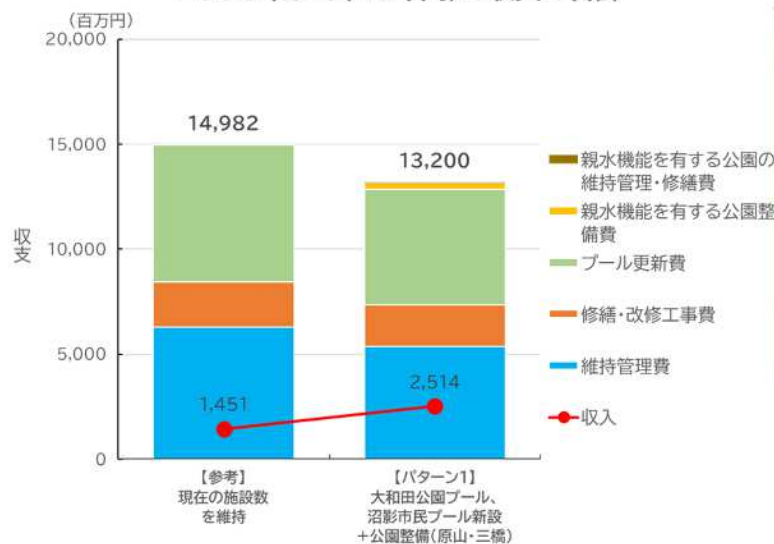
- 北部エリアと南部エリアに1施設ずつ、**バランスよく配置が可能**。需要をカバーできる。

財政負担の軽減

【コスト算出の条件】

- ・沼影市民プールの代替は、南部エリア内に2.4ha新設する。
- ・新設・更新の際は、Park-PFIの導入により、更新費を9.2%削減する。(与野公園の実績を参照)
- ・新設・更新の際は、利用料金を720円の値上げを行う。

2050年まで(28年間)の収支の合計



支出の内訳(百万円)

	参考	パターン1	
プール	維持管理費	6,300	5,381
	修繕・改修工事費	2,129	1,979
	更新費	6,552	5,502
親水機能	整備費	0	304
	維持管理費・修繕・改修工事費	0	34
解体費	4,495	4,495	

※公民連携事業による民間提案の条件次第で、支出の内訳および収入は変動する可能性がある。

支出超過額(百万円)	13,530 (約4.8億円/年)	10,686 (約3.8億円/年)
※解体費は除く		

- 5施設を維持する場合に比べ、**支出超過額を約28億円軽減**できる。

6.集約・再編パターンの検証

パターン2:大和田公園プール・原山市民プールリニューアル・公園整備(三橋)

地域バランス



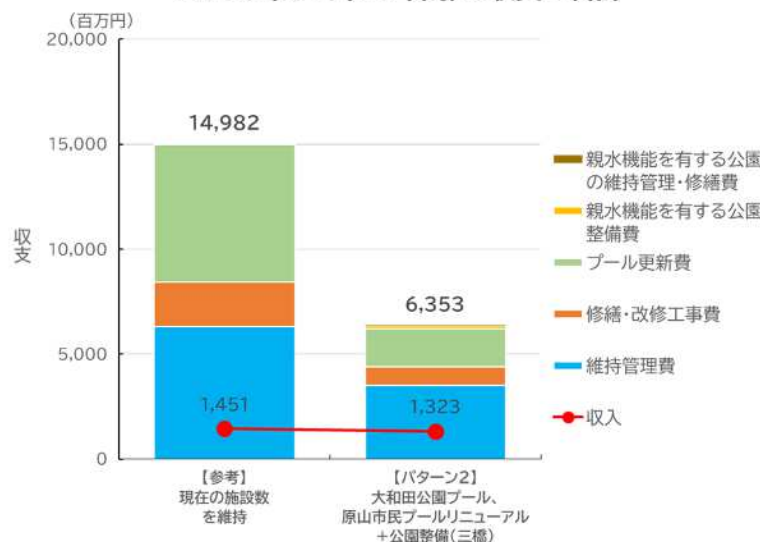
- 北部エリア、南部エリアに1施設ずつではあるが、**駐車場のない原山市民プールで、南部エリアの需要をカバーするには、相当な工夫が必要。**

財政負担の軽減

【コスト算出の条件】

- ・原山市民プールは、今と同じ位置で、可能な限り広域利用が見込めるようリニューアルする。
- ・更新の際は、Park-PFIの導入により、更新費を9.2%削減する。(与野公園の実績を参照)
- ・更新の際は、利用料金を720円の値上げを行う。

2050年まで(28年間)の収支の合計



支出の内訳(百万円)

	参考	パターン2	
プール	維持管理費	6,300	3,510
	修繕・改修工事費	2,129	894
	更新費	6,552	1,819
親水機能	整備費	0	117
	維持管理費・修繕・改修工事費	0	14
解体費	4,495		

※公民連携事業による民間提案の条件次第で、支出の内訳および収入は変動する可能性がある。

支出超過額 (百万円)	13,530 (約4.8億円/年)	5,031 (約1.8億円/年)
※解体費は除く		

- 5施設を維持する場合に比べ、**支出超過額を約85億円軽減**できる。

6.集約・再編パターンの検証

パターン3:保有量最小化(大和田公園プールのみ)

地域バランス



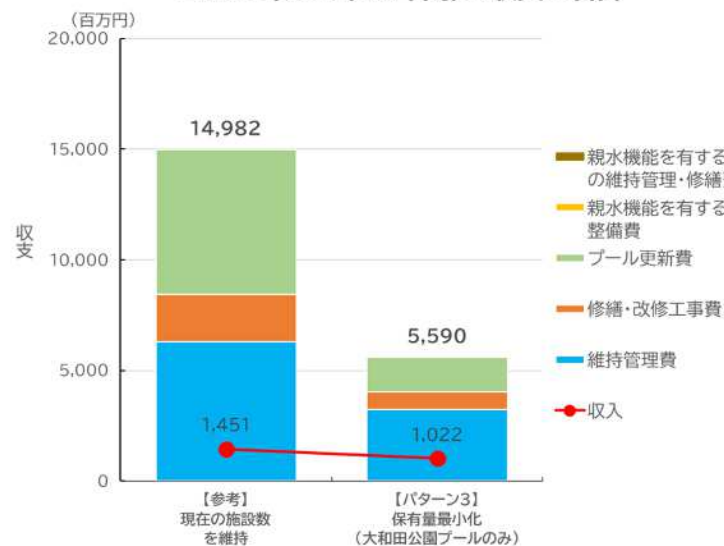
- 北部に偏った配置であり、南部エリアにはレジャープールがないため、**需要をカバーできない。**

財政負担の軽減

【コスト算出の条件】

- ・更新の際は、Park-PFIの導入により、更新費を9.2%削減する。(与野公園の実績を参照)
- ・更新の際は、利用料金を720円の値上げを行う。

2050年まで(28年間)の収支の合計



支出の内訳(百万円)

		参考	パターン3
プール	維持管理費	6,300	3,241
	修繕・改修工事費	2,129	807
	更新費	6,552	1,542
親水機能	整備費	0	0
	維持管理費・修繕・改修工事費	0	0
解体費		4,495	

※公民連携事業による民間提案の条件次第で、支出の内訳および収入は変動する可能性がある。

支出超過額 (百万円) ※解体費は除く	13,530 (約4.8億円/年)	4,568 (約1.6億円/年)
---------------------------	----------------------	---------------------

- 5施設を維持する場合に比べ、**支出超過額を約90億円軽減**できる。

6.集約・再編パターンの検証

まとめと評価

集約・再編パターン	【参考】 現在の施設数を維持	【パターン1】 大和田公園プール 沼影市民プール代替プール新設 公園整備(原山・三橋)	【パターン2】 大和田公園プール 原山市民プールのリニューアル 公園整備(三橋)	【パターン3】 保有量最小化 (大和田公園プールのみ)	
将来の状況	5施設を維持	5施設から2施設に集約	5施設から2施設に集約	5施設から1施設に集約	
大和田公園プール	・同規模で単純更新	・公民連携によるリニューアル、利用料金の増額			
沼影市民プール(屋外)	・代替地に同規模で再整備	・公民連携により代替地に新設 ・利用料金の増額	×R6年度以降に解体(施設廃止)		
原山市民プール	・同規模で単純更新	・プールを解体し、公民連携により親水機能を有した公園を整備	・公民連携によるリニューアル ・利用料金の増額	×解体(施設廃止)	
三橋プール	・同規模で単純更新	・プールを解体し、公民連携により親水機能を有した公園を整備		×解体(施設廃止)	
下落合プール(屋外)	・同規模で再整備	×中央区役所周辺の再編に合わせ、解体(施設廃止)			
総合評価	—	○	△	×	
地域バランス	—	○ 広域利用が可能な2施設がバランスよく配置 需要をカバーできる	△ 2施設がバランスよく配置 需要をカバーするには相当の工夫が必要	×	
支出超過額(百万円) (年間の支出超過額)	— 13,530 (年間約4億8,300万円)	△ 10,686 (年間約3億8,200万円)	○ 5,031 (年間約1億8,000万円)	○ 4,568 (年間約1億6,300万円)	
収入	1,451	2,514	1,323	1,022	
プール	イニシャルコスト※	6,552	5,502	1,819	1,542
	ランニングコスト	8,429	7,360	4,404	4,048
親水機能	イニシャルコスト※	0	304	117	0
	ランニングコスト	0	34	14	0
解体費			4,495		

※ 公民連携事業による民間提案の条件次第で、支出の内訳および収入は変動する可能性がある。

7. レジャープールのあり方方針(案) (1)レジャープールの基本的な考え方

基本的な考え方

- ① レジャープールは、夏季における市民の娯楽の一つとして重要な役割を果たしており、それは今後も同様である。そのため、**今後もレジャープールを維持していく。**
- ② 今後、人口減少や少子化により**利用者数が減少**することが想定されるため、**財政負担の軽減**に向け、**施設の集約・再編**を行う。
- ③ レジャープールを新設・リニューアルする際には、**Park-PFI等の公民連携手法の積極的な導入**を検討する。
- ④ 併せて、利用料収入を確保するため、**施設の魅力度が向上する場合は、民間事業者の意向を踏まえ、利用料金の改定を検討する**(民間事業者の意向次第では、レジャープールの屋内化も検討する)。

集約・再編の方向性

- ① 地域バランスと財政負担軽減を考慮し、**北部エリアと南部エリアにそれぞれ1施設とし、5施設から2施設に段階的に集約・再編**を目指す。
- ② 基本的に、集約する2施設は、広域からの市民利用が期待できる**総合的なレジャープール**を目指す。
- ③ 廃止となるプールについては、親水機能を有した**身近な公園などに整備**し、引き続き、公共空間としてサービスを提供する。

7.レジャープールのあり方方針(案)

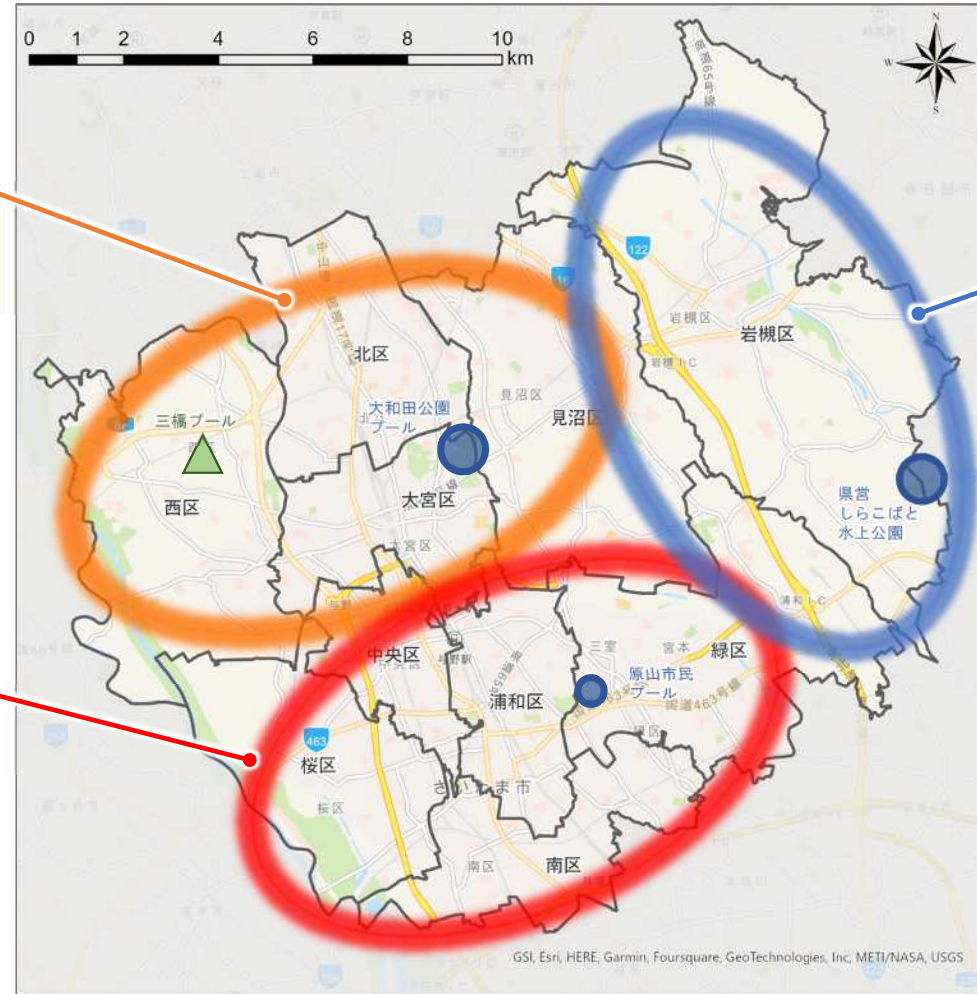
(2)レジャープールの将来イメージ

北部エリア

- ・レジャープールは1施設に集約する。
- ・大和田公園プールの更新により、継続利用する。
- ・三橋プールは、親水機能を有した**身近な公園などに再整備**する。

南部エリア

- ・レジャープールは1施設に集約する。
- ・まずは、沼影市民プールの代替の新設を優先して検討する。
- ・ただし、財政負担の軽減を踏まえ、原山市民プールのリニューアルについても併せて検討するとともに、プールにしない場合は、親水機能を有した**身近な公園などに再整備**する。



東部エリア

- ・越谷市境に、**県営しらこぼと水上公園**がプールを営業。

【県営しらこぼと水上公園】

開設:1979年6月

面積:11.8ha(プール部分)

【凡例】

- レジャープール
- ▲ 身近な公園整備

※南部エリアでは、沼影市民プールの代替地に関する検討を行う。
※新設・リニューアルの際は、Park-PFI等の公民連携手法の積極的な導入を検討する。

今後のスケジュールと課題

今後のスケジュール

会議等	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降
戦略会議			➡					
議会報告				➡				
パブリックコメント					➡			
とりまとめ						➡		
あり方方針の決定							★	
各施設の検討						■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	➡	

課題

- 公民連携を導入する場合の手法整理、民間事業者の意向把握が必要
- 屋内プールの建設を検討する場合、各公園等の建ぺい率などの建築要件・開発要件の確認が必要